

高知県 四万十町

十和・四万十中流域地区

観光・交流

コンパクトシティ

交通利便性向上

経済活性化

健康・医療

子育て支援

防災・減災

その他

■ 基本情報

計画期間：平成 22 年度～平成 25 年度

面積：550ha

交付対象事業費：266 百万円

市町村人口：17,837 人

(地区人口) (2,760 人)

※H28.12.1 現在人口

■ 地区概要

四万十町の中心地から遠隔な地域であり、地域の衰退が課題となっているため、コミュニティセンターを中心にふるさと交流センターやポケットパークを整備し、地域の活性化を図る。

■ 目標

(大目標) 自立と共生のまちづくり

(中目標) こいのぼりの川渡しや十和おかみさん市などの十和・四万十中流域が誇る地域資源等を生かしながら、人々がいきいきと安心して安全に暮らせる地域づくりをする。

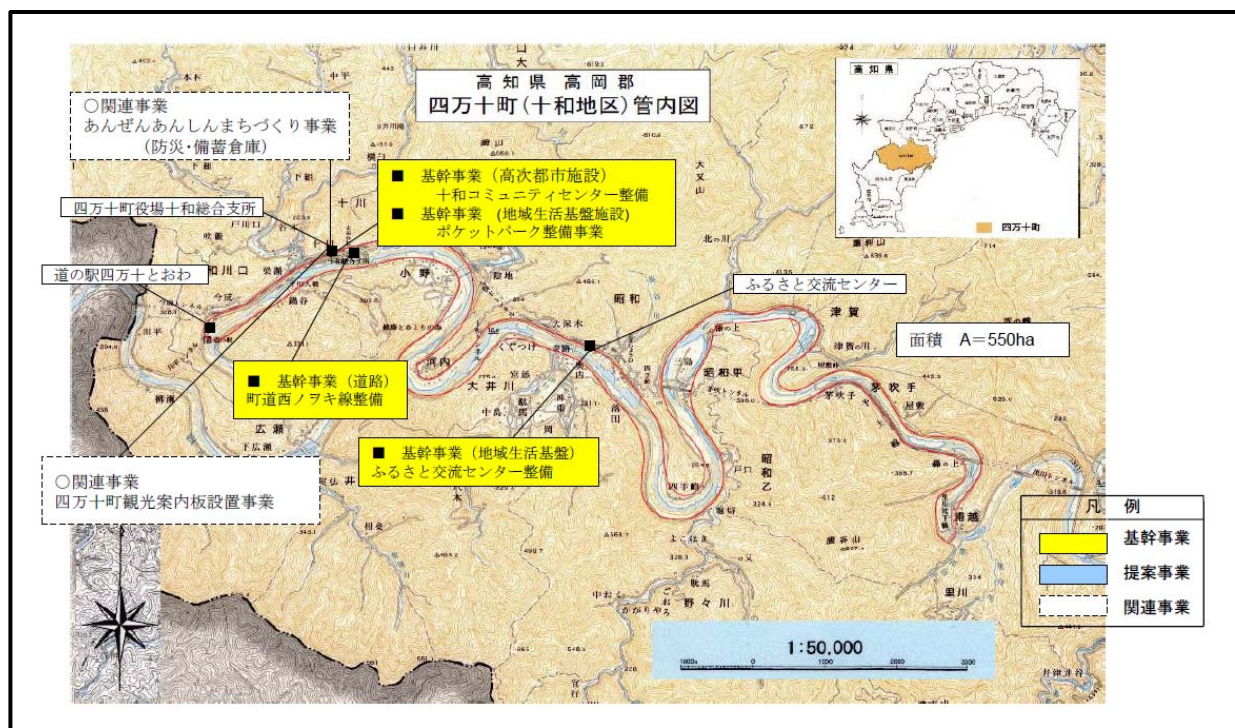
- ・ 四万十川をはじめとするあらゆる地域資源を生かしながら、観光客等がゆったりと滞在できるような地域づくりをすすめる。
- ・ 地域住民がいきいきと暮らせるように、地域のコミュニティ活動の推進を図る。

■ 主な事業

基幹事業：【地域生活基盤施設】ふるさと交流センター(広場) (3 百万円)

ポケットパーク (40 百万円)

【高次都市施設】コミュニティセンター (223 百万円)



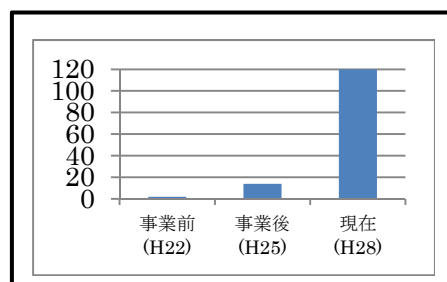
■まちづくりの実施効果

定量的な効果

●地域のコミュニティ活動数の増加

- 2回（事業前H22）
- 14回（事業完了後）
- 120回（現在H28）

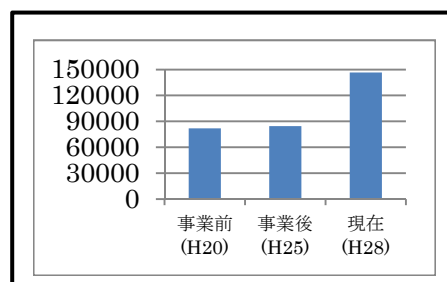
地域密着型のコミュニティセンターの設置により、事業完了後も継続して地元団体が会議等に積極的に活用している。



●道の駅とおわの来場者数の増加

- 81,840人（事業前H20）
- 84,469人（事業完了後H25）
- 146,645人（現在H28）

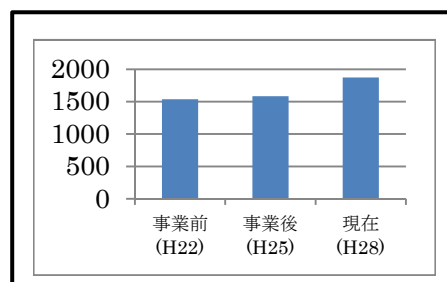
奥四万十博等のイベントの影響や四万十町の知名度が上がってきたことにより、事業完了後も町内外から多くの来場者で賑わっている。



●ふるさと交流センター宿泊者数の増加

- 1,538人（事業前H22年）
- 1,583人（事業完了後H25）
- 1,872人（現在H28）

奥四万十博等のイベントの影響やラフティングやカヌーの体験及び貸出用品の充実等により、事業完了後も多くの宿泊客で賑わっている。



定性的な効果

- ・コミュニティセンターとおわの2階には、ホール等の施設を設け、事業完了後も継続して地域住民並びに町外からの来町者等の交流の場となっており、地域コミュニティや観光振興の向上につながっている。



■効果を継続させるための今後の取組み等

- ・コミュニティの醸成並びに観光客の誘致等により、地区内の活性化は図られ、十和地区に愛着を持つ県外者が増加している。しかしながら、地区内の少子高齢化は進み、その影響による人口減少は著しく、集落の消滅も現実のものとなっている。今後は、若者やU・Iターン者の定住を目的とした就業対策や住宅整備等を進めていくことで、人が残り、集落が維持できる「自然と人が元気」な四万十町の形成に取り組んでいく。

■地区 PR 欄

『おかみさん市』は四万十町十和地区の生産者が集まってできた、生産者の方々の株式会社であり、十和で収穫される新鮮な農産物、それらを使って作られる料理や加工品がおかみさん市の自慢です。活動されている方の8割は女性で、野菜の出荷販売を中心に、「道の駅四万十とおわ」で毎週水曜開催のバイキングや、年3～4回季節に応じたツアーなどの企画、加工品の開発販売、ISO14001という安心安全野菜の取り組みなども精力的に行っています。

コミュニティセンターとおわは、このような組織の代表者会や総会等にも積極的に活用されており、この会議で出された意見から、おかみさん市の直販所も設置しました。直販所は、こいのぼりの川渡し発祥の地である四万十川沿いに設置し、春には直販所の上空で、四万十川の川面を渡る風を受けて悠然と泳ぐ『こいのぼりの川渡し』が行われており、年に1度の四万十川の春の風物詩を見にたくさんの観光客が訪れます。

このような活力ある団体とともに、四万十町十和・四万十中流域地区は今後もさらなる活性化を目指していきます。

